

1 スパン分の型枠設備を移動させながら主桁を施工する架設工法

調査・設計・計画

橋梁架設

材料

ICT施工

コンクリート施工

プレキャスト

高耐久化・床版更新

お客様のメリット

- 桁下空間の環境が保全でき、繰り返し作業で労務が標準化し安全性・品質が向上します。
- 機械化による省力化・急速施工が可能になります。
- 大規模な橋梁（一般に施工延長600m以上）ほど経済的になります。

技術の特徴

1 スパン分の型枠設備を備えたメインガーダーを移動しながら主桁コンクリートを施工する架設工法で、支間長の変化が少なく橋長が長い橋梁に適しています。

地上に支保工を設置する必要がないため、桁下空間の条件とは無関係に架設することができ、道路や鉄道を横断する場合でも、交通を規制する必要がありません。また、屋根を設けることにより、天候に左右されることなく作業をすることができます。

支保工の形式により、サポートタイプとハンガータイプに大別されます。



中ノ合高架橋（サポートタイプ）



大飯高架橋（ハンガータイプ）

実績・事例

- ・ 山形自動車道 睦合高架橋 1998年12月完成
- ・ 近畿自動車道 大飯高架橋 2002年9月完成
- ・ 一般国道168号道路改築工事（七色高架橋） 2004年12月完成
- ・ 第二東名高速道路中ノ合高架橋下り線工事 2009年3月完成
- ・ 東関東自動車道 涸沼川橋 2010年1月完成



七色高架橋

社外表彰

○七色高架橋 平成17年度土木学会田中賞作品部門